
～世界中に愛のうたを～

岡宮 未希菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～世界中に愛のうたを～

【Nコード】

N0874B

【作者名】

岡宮 未希菜

【あらすじ】

作曲家を目指して東京に行ったことがきっかけで、仕事を頼まれ、その中で愛がテーマの詩がなかなか書けない所に気晴らしに散歩に行って……。

私は一流作曲家になるために、三重県から東京にやって来ました。まだ高1だけど、将来に向かって一歩前進って所です。

「やっぱり東京は広いなあ。良いうたが書けそう！」

私がうたを作るには2つ理由がある。

1つ・自分の気持ちをうたってもらえるから。

2つ・世界中にきいてもらえるから。

もっとも2つ目が一番の理由です。

「裕美ちゃん、初仕事だよ！歌手デビューするユニットのうた書くんだって。」

もちろんOKだね？」

「ほんとですか？もちろんやります。」

「じゃ、さっそくだけど……。どんな感じのうたが良いか聞いてきたの聞いてくれないかな？」

条件1・今の季節【秋】にふさわしいうた2・優しくて穏やかなうた

ってことだそうだ。」

「うーん……。難しそうだけど、頑張ってみます！」

秋にふさわしいうたと言ったらモミジとか、イチョウかなあ？

初仕事だから力入れて頑張らないと！

「裕美ちゃん少し書けた？」

「沢崎さん。少しなら書けました。」

「どれどれ……。【すずしい風 もっとすずしくなった頃には貴方は帰って来ますか

ひらひらと落ちてくるモミジが今日もなつかしく感じます】

いい詩だね。順調みたいだから良かった。この先も頑張って。」

「有難うございます。沢崎さん、また見に来てください。」
ほめられた！すつごく嬉しかった。
やっぱり、誰かを思って書いた詩って良いんだね……。

「書けた！！結構早かったかな。5日で書けちゃった！もうちょつとマイペースでも

良かったかな？まあ書けたなら良いや！沢崎さん呼んでこよお。

「詩書けたの？どれどれ……。【すずしい風 もつとすずしくな
った頃には貴方は帰って来ますか

ひらひらと落ちてくるモミジが今日もなつかしく感じます
もう一回貴方と見たい

あのモミジ 秋になったら帰ってきてね絶対に 心地よい風
前はもつと心地良かったあの風

は何処へ行ったのでしょうか もう一度一緒にいたいな 秋が終わ
るまでには戻ってきてね

約束だよ 約束だよ】とっても良い詩だよ！ここまで書けるなん
て思わなかったヨ！？

じゃさっそく出してくるね。」

「よろしく願います！」
でも、こんなのじゃ無い！

私が書こうと思ってる詩はこんな悲しさに満ち溢れてるうたじゃ無
い！

今度頼まれたら自分なりのを書いていこう！

愛に満ち溢れたうたを書こう……。

「この前のすつごく評判だったよ。だからまた頼まれて来たんだよ。
今度は、大学生の文化祭で使ううた！良かったら結構評判になり
そうだよ。」

「引き受けます。すつごく良いうたを書いて見せます！」

「すごい自信だね。是非期待してるよ。それで、今度は愛がテーマの詩が

良いらしいからよろしくね。」

愛がテーマ……。ちょうど良い!!

とっておきの、愛の詩を作ってみせる。

1週間後

「なかなか出来ない……。すいません沢崎さん……。もう少しでも時間を下さい。」

「別に焦なくていいよ。時間はたっぷりあるんだから。」
張りきっていても全然詩書けない……。

何でだろう？一回外でも出てみよう。

「久しぶりに外出たらこんなにも落ち葉が綺麗な季節になっていたんだ……。」

この落ち葉をテーマに書いてみようかなぁ……。」「

「この落ち葉最高に綺麗だろう？」

「え?! 貴方は誰ですか？」

「失礼失礼。俺の名前は杉田竜!よくここに散歩しに来るんだヨ。
君の名前は？」

「私は広崎裕美。作曲家やってるんだ!今頼まれている詩が思いつかなくて、

気晴らしに散歩してみたの。」

「へえ。作曲家なんだ!!すごい!思いつかないときは外歩くと結構ものになるよ。」

「私はそうゆことじゃ無くて……。自分の気持ちに素直に書けないんです。

愛がテーマなんだけど、恋とかあんまりしたこと無くって……。」「

「じゃ明日俺とデートする?そうすれば見つかるんじゃない?」

「なんで貴方と?!会ったばかりなのに、デートして愛が分かる

とても

「思いますか？」

「しらねえけど、思いつめてばかりじゃ逆効果だぞ！」

「何もかも忘れて遊園地でも、行こうぜ！」

「そうゆことなら、行ってみます……。」

「そうこなくっちゃ！」

まあ、悪い人じゃ無さそうだし行ってみよう。

気晴らしとゆうことなら。

まさか恋とかもしないと思うし……。

「今日は何着てこうかなあ……。って！別にデートじゃないんだし！！」

「適当に……。」

「遅れてごめんね。待ったでしょ？」

「待った！けど、服選んでたんだろ？だいたいの子はそうだから……。」

「ち、違うもん！」

「まあいいや！行こうぜ！チケットも取ってあるから。」

「めっちゃ楽しいネ。またオバケ屋敷行きたい！！」

「何回目だよ……。これで5回だぞ？！」

「って！！何か普通に楽しんだ！」

まあ、デートじゃ無いからいいか。

「観覧車乗ろうぜ！」

「ええー！！！怖い……。けど、行く！」

何かすっごく楽しいな！

こんなに楽しいの初めてかも！

「今日は有難う。とっても楽しかったヨ！」

「そっか。良かった！また行こうな！！」

「うん！今度は映画とかが良いな。」

「良かった。昨日は笑ってなかったけど、今日は笑ってたな！
元気出たろ？」

「え！！そんなところまで見てたんだ。。おかげさまで元気ハツ
ラルだよ！」

なんかドキっとしちゃった。。。

好きになったのかな。。。そんなわけ絶対に無いヨ。。。

「裕美ちゃん書けた？」

「すいません。まだです。。。」

「裕美ちゃん最近化粧してるでしょ？好きな人でも出来た？」

「え！いえ違います。。。一樣女の子だから。」

とうとう竜君のこと好きになっちゃった。

この思い伝えたい！！

「ごめんね。急に呼び出して。。。」

「別に。俺結構暇なとき多いしさあ。」

「そっかあ。あのね、私。。竜君のこと。。

いつもまにか好きになってたの！」

「は？嘘だろ？」

「ほんとだよ！何故か分からないけど自然と好きになってた！」

「俺もだんだん、気がついてたらお前のことばかり考えてた。

俺と付き合ってください。」

「こちらこそ。」

初めてかも。自分で告白したのは。。。

嬉しい、嬉しすぎる。。。

愛のうた、今ならかける！！

書けたら一番最初に竜君に見せたい！！

「やっと書けた！これから竜君に電話を書けようかなあゝ！」

「もしもし竜君??」

「何？」

「詩かけたから見てくれないかな？」

「良いよ！！今？」

「うん！」

早く、早く竜君に見せたい！！

「はいこれだよ！！！」

【毎日が 暗い日々 その日を照らしてくれた貴方は 私の一番大切な存在になった

好きだったと思うとき そのときは 世界が愛を語っている

いつの日か 思うときが誰にも来る 口ずさむうた 皆の心に

生き続けるうたは 何処にある？ ここにある このうたこそ

心に生き続けるんだ 愛こそ世界中を包む包み紙

人を愛せたとき 好きになった時こそ 愛が世界に渡っていく

貴方の心に 愛を 世界中に愛のうたを】

「どう？」

「とっても良いよ！！世界中に愛が届くといいな！」

「絶対届く！愛のうたこそ世界が望むうたなんだから！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0874b/>

～世界中に愛のうたを～

2010年10月11日00時11分発行